KADENA SKOSHI
SEPTEMBER 2012
Vol. 48
第18航空団広報局発行
www.kadena.af.mil

在日米軍司令官、嘉手納基地を訪問

第18航空団広報局

U.S. FORCES JAPAN, 5TH AIR FORCE COMMANDER, LT. GEN. SAM ANGELELLA VISITS KADENA

9月19日（水）、来沖中の第5空軍司令官サム・アンジェレラ中将が嘉手納基地を訪問しました。

（写真全て、米空軍：テラ・ウィリアムソン上等兵撮影）

アンジェレラ中将は在日米軍司令官も兼務しています。嘉手納の空軍兵に向けて、米国の日本国との同盟関係における責務や太平洋地域における平和と安定の維持の重要性について語りました。

「私の在日米軍司令官としての責務は、太平洋軍からの指令にもとづいて統合任務軍を率い、日本国の防衛や災害時の救援、人道的支援にあたることです。ゼロからスタートするのではなく、トモダチ作戦などからの教訓を活かし、それを組織編制に役立てます」と述べました。

そのほか、嘉手納の空軍兵だけでなく空軍全体が直面している状況にも言及。アンジェレラ中将は、「90年代より空軍は戦闘状態にあり、任務のテンポもその継続状態にあります。そのような時期に入隊し、国に仕えている空軍兵とそれを支える家族の方々には大変感謝します」と述べました。また、空軍兵の日頃の職務についても激励。激務であってもその分高い達成感が得られると語りました。アンジェレラ中将は空軍以外の姉妹軍の基地も訪問しました。

SKOSHI KADENA SEPTEMBER 2012

PART I
在日米軍司令官、嘉手納基地を訪問
米国空軍創立65周年記念祝賀会
創意工夫でコスト削減に貢献
嘉手納スペシャルオリンピックス実行委員会壮行会開催！
レッドホース中隊ボランティア、老人ホームー条園を訪問
嘉手納外語塾インターンシップ、4週間の研修を終える
インターンシップー英語で働き、学んだ四週間

PART II
名誉司令官オリエンテーション開催
現役高校生、デリースが教えてくれる
嘉手納基地内学校情報あれこれ
国防省立教育機関学校への登録システム
嘉手納外語塾生、英語で嘉手納町の街中を紹介
地元小学生、野国総官墓碑を見学
外務省沖縄事務所主催による
「沖縄理解増進セミナー」

米国空軍創立65周年記念祝賀会 第18航空団広報局

（写真全て、米空軍：ジャスティン・ヴィゼイ上等兵撮影）

第18航空団司令官マット・モロイ准将夫妻の主催による米国空軍創立65周年記念祝賀会が、9月24日に開催されました。軍人と配偶者を含む1000人以上の空軍関係者及び来賓の出席があり、米国空軍の伝統と歴史を祝福しました。米国空軍は、1947年9月18日、米国陸軍より分離独立して創設されました。

PROUD HERITAGE, BOUNDLESS FUTURE - UNITED STATES AIR FORCE BALL 2012 AT KADENA AIR BASE

創意工夫でコスト削減に貢献 第18航空団広報局

2011年7月、米国空軍は連邦政府職員にコスト削減に向ける取組みのため様々な分野で削減できるアイディアを募集し、これまでに56,000件もの案が提出された。

嘉手納基地第18施設中隊所属の重機オペレーター、リチャード・ヴェイデン１等軍曹と第18整備群エンジニア技術部担当のステファン・タッカー上級曹長の二人はそれぞれコスト削減案を打ち出し、空軍に大きく貢献したことが認められ、各々賞金10,000ドルを受け取った。

ヴェイデン１曹は飛行場の滑走路上に付着するタイヤ痕の問題に目を向けた。飛行機の離発着時に車輪が滑走路に接触する度に、車輪のゴムが滑走路に付着する。それが積み重なるとタイヤが滑りやすくなる危険性を引き起こすだけでなく、パイロットからもセンターラインが目視しにくい状況を引き起こす。タイヤ痕を落とすため、これまでの洗浄作業では滑走路閉鎖と大勢の労力が伴い、効率も悪く、時間と経費がかかっていた。そこでヴェイデン１曹は効率性と安全性を検討し、高圧洗浄機を使用することを提案し洗浄作業を行った結果、年間$277,000もの労力と経費の削減に成功し、彼はIDEA（Innovative Development through Employee Awareness 従業員による改革進展）プログラムからその節約案が評価された。

（米空軍：ダーネル・ケネディ二等軍曹撮影）

タッカー上級曹長は戦闘機の燃料使用量を抑えるために、まずエンジン整備の工程を見直し、新たなエンジン出力設定を打ち出した。それはエンジントラブルの識別装置を使用する際、エンジン出力を80%に下げ、出力時間も3分から1分へ短縮することでこれまで10,000ポンド使用していた燃料を、2,500ポンドまで抑え、実に75%もの燃料節約が可能になるということだった。この出力設定では戦闘機を駐機場等に移動させる必要もなく、約$89,000分の燃料と労力の節約となることがわかった。2年後、米国空軍はタッカー上級曹長の提案を取り入れ、新しく技術指示書を書き換えた。

ヴァイデン１曹は「より良い効率性のある方法が発見できれば、もっと色々な分野を改善し経費を削減することができる」と話し、さらなる経費削減に努める意向である。

KADENA SPECIAL OLYMPICS

（写真全て、米空軍：デイビス・ヘイレイ上等兵撮影）

2012
PEP RALLY

Special Olympics
Kadena
13th Anniversary

嘉手納スペシャルオリンピックス実行委員会壮行会開催！

第18航空団広報局

今年も嘉手納スペシャルオリンピックス大会、関連行事が近づいてきました。軍人関係者は2年～3年おきに転勤があり、毎年の大きな大会についても全く知らない人も数多くいます。特に各部隊の指揮官にイベントの意義、規模を理解してもらうことは大切です。軍人や軍属、その家族の人たちにボランティアで参加してもらうことにより嘉手納スペシャルオリンピックス大会実施が成り立っています。そこで今年も嘉手納基地はもとより海兵隊、海軍、陸軍の指揮官らを招き8月28日、ペップラリー（壮行会）を開催しました。

また米国総領事、AAFESやコミサリー、銀行など米軍コミュニティーの諸団体、地元地域の福祉協議会、商工会議所・商工会、行政から代表者も参加がありました。嘉手納スペシャルオリンピックス大会主催者代表の第18航空団司令官マット・モロイ准将は、「お互いのパートナーシップを発揮して、皆の力でアスリートやアーティストのため楽しい祭典を開催できるようご協力をお願いします」と、支援をよびかけました。

今年の大会ポスターもできあがり序幕式が行われました。㈱池宮商会に勤務している宮里さんがポスターをデザインしてくれました。また、余興として、うるま市にある就労継続支援施設桑の実に通所しながら、日頃からスペシャルオリンピックスのスポーツ練習に参加しているアスリートたちが踊りを披露してくれました。

レッドホース中隊ボランティア、老人ホーム一条園を訪問

第18航空団広報局

2012年8月22日、嘉手納基地の第554レッドホース中隊に所属するボランティア17名は、沖縄市にある特別養護老人ホーム「一条園」を訪れ、庭や敷地内の草刈作業を行いました。作業の後、園長の崎山洋子さんから園内を案内され、参加したボランティアは老人ホームの活動や運営についての説明を受けました。

一条園には現在およそ100名のお年寄りが入所しており、約40名の地域のお年寄りが日々デイサービスを利用しています。デイサービスを利用しているお年寄りの中には、米軍基地で働いた経験のある方もいて、久しぶりに英語を使ってボランティアと楽しくおしゃべりをする光景も見られました。レッドホース中隊は、定期的に一条園を訪れ、清掃及び交流活動を行う予定を立てています。

（写真提供：第544レッドホース中隊）

544TH RED HORSE SQUADRON
VOLUNTEER TEAM!

嘉手納外語塾インターンシップ、4週間の研修を終える

第18航空団広報局

2012年8月28日から9月21日までの約4週間、嘉手納基地において嘉手納外語塾インターンシップが実施されました。今回、嘉手納外語塾2年生の9名は、嘉手納基地内の様々な職場で研修を行いました。受入れ先事務所は、ライズナーフィットネスセンター、シリングコミュニティーセンターなどを始め、主に英語を使って接客業務を行う職場で研修を行いました。

最終日には、インターン生のための送別会が開催され、嘉手納基地の幹部、インターン生のご父兄、外語塾の先生方や受入れ先事務所の方々も出席しました。送別会の中で、インターン生一人一人が研修での経験をスピーチにし、英語と日本語の両方で発表しました。ティーンセンターで研修をしたインターン生の宮城翔さんは「始めは電話をとるのも不安でしたが、英語で対応できるようになると自分でも嬉しく、自信にも繋がりました」と、スピーチで述べました。

第18任務支援群司令官のジェフリー・オルマン大佐は挨拶の中で「基地内でのインターンシップの経験が、皆さんの夢をかなえるための後押しとなり、接客力やビジネス感覚を向上させ、将来豊かな人生となることを願っています」と外語塾生へ励ましの言葉を送りました。

(指定以外の写真提供：嘉手納外語塾)

インターンシップ－英語で働き、学んだ四週間

津波古　美奈代（嘉手納外語塾２年・広報局インターン生）

私は嘉手納基地へ何度も訪れたことはありますが、インターン生として基地内で働くのは初めてのことでした。はじめは何をするにも緊張ばかりしていましたが、職場のスタッフの皆さんは優しく気軽に話しかけてくれたので職場に馴染むのにそう時間はかかりませんでした。私は四週間、広報局で研修しました。そこでは取材や写真を撮りに出掛けることが多く私も同行させてもらい、あらゆる場所で仕事を見学し視野を広げることができました。

私は四週間のうちにさまざまな仕事に携わることができました。まず、私と同様に基地内で働く他の部署にいる外語塾生の働く姿を、カメラマンの仕事として撮影するというものがありました。そのためにカメラの撮影技術を教わり、また、撮った写真を編集する技術も習いました。次に、司令官の方々が集まるイベントではほんの少しですが通訳の仕事も果たしました。初めての通訳だったので緊張しましたが、会話をつなぐことが出来たので誇りに思います。

さらに英語での会議にも参加させてもらい、聞き取りの練習もしました。繰り返し英語を聞くことで、早いスピードの会話にも自然とついていけるようになりました。そして、広報局のスタッフがＮＨＫ那覇局や米軍のＡＦＮ放送局に行く際、一緒に同行し、スタジオやラジオ放送の様子を見学することができました。また、このように記事を書く機会ももらいました。普段体験できないような貴重な経験を多くさせてもらったことにとても嬉しく思います。

働きながら気づいたことは日本に比べ、職場内では連絡・確認などの会話が多く互いに意思疎通が取れており、協力しあう姿勢が見られ仕事をする上でとてもいい環境だと思いました。普段からコミュニケーションが取れていると突然の仕事の変更などにも柔軟に対応でき、仕事の効率化につながるのでぜひ見習うべき点だと感じました。

今回の基地内研修を通して英語技能の向上だけでなく、専門的な仕事も学べ、行動のひとつひとつが勉強になり素晴らしい四週間を過ごすことが出来ました。受け入れてくださった職場の方々の親切 協力に心から感謝しています。

MINAYO TSUHAKO, INTERN, 18TH WING PUBLIC AFFAIRS